

誰でも平等に

学べる社会を

大学の学費についての親の声

どこでもよければ、大学進学はさほど難しくもない時代。そうは言っても親としてはなるべく安い学費と、学費以上にかかる生活費を抑えるために自宅から通える大学を選んでほしいと思うものです。しかし大学数の少ない新潟ではその親の願いはなかなか叶わぬものとなっております。

関東圏の私立理系の大学に通わせた親は、入学してから5万、10万とバラバラと支払っていて1年が過ぎ計算すると300万を超えびつくり！

2年次から大学院卒業までの5年間、奨学金を借りました。総額は384万円、月々15000円くらいの返済にしたら完済まで21年かかります。私立の理系は実習などもありバイトができず、それでも経済的に

バイトせざるを得ない子は、無理してバイトをして単位を落としたり留年したりする学生も少なくないとのこと。まさに本末転倒です。何をしに大学に行くのか？
どうにかこうにか卒業できても待っているのは多額の借金。多くの学生が何年もローンを組むことになります。

知人の娘さんは結婚を考えた相手がいたけど、奨学金を返済していることを告げるとそんな借金抱えた娘はもらえないと、結婚が破談に。親に頼らず返済している孝行娘が悲しい思いをする世の中、おかしいです。
親は多くは望みません。誰もが平等に学べること、そして我が子の幸せだけを願っているのです。

